1. 漁業の水揚量と養殖業の収獲量
2. 漁港と漁業従事者

1. 漁業の水揚量と養殖業の収獲量

わが国の1973年の海面漁業の水揚量は776万tで、都道府県別にみると北海道が251万tでもっとも多く、青森県62万t、宮城県61万t、静岡県46万t、長崎県40万t、千葉県35万tとつづく。その魚種は、北海道や東北地方の太平洋側でたら、すけとうだらが多く、静岡県や神奈川県でまぐろ、かじき類が多い。

内水面漁業は、その47%が河川、53%が湖沼からの漁獲である。その魚種は、しじみが全漁獲量の38%でもっとも多く、あゆ10%、ふな9%とつづく。

海面養殖業、内水面養殖業の収獲量は、最近10年間にいずれも約2.2倍に増加した。宮城、広島県のかき、静岡県のうなぎ、新潟、奈良県の観賞魚など地域的な特産物が多い。

〔凡例と作図の要点〕

海面漁業の水揚量は、実際にどの地域の港に水揚げしたかを表わす属地統計である。ただし捕鯨業、母船式かに、母船式さけ・ます、母船式底びき網等、母船式まぐろはえなわ、北太平洋ずわいがになど北方トロール、南方トロール、えびトロールの各漁業種類による水揚分、および外国への水揚げ分は除外されている。

〔資料〕

1．農林省，昭和48年漁業養殖業生産統計年報

2. 漁港と漁業従事者

わが国の1972年12月31日現在の指定漁港数は2,756港で、その種類別内訳は第1種漁港2,103港、第2種漁港468港、第3種漁港104港(特定第3種漁港11港をふくむ) 第4種漁港81港である。

漁船の年間延利用状況は第1種漁港6387万隻(1.26億トン)、第2種漁港3711万隻(1.02億トン)、第3種漁港1386万隻(1.15億トン)、第4種漁港537万隻(0.24億トン)、あわせて1億2000万隻(3.67億トン)である。

また、登録された漁船は28万隻、131万トン(うち、無動力漁船6.2万隻4.4万トン)である。漁船は、最近10年間に隻数で55.8%、トン数で39.5%増加し、そのうち5トン未満の漁船が増加隻数の97%をしめ、また100トン以上の漁船が2.1倍の増加率を示した。

1年間に入港した漁船の延トン数が多い港は八戸港(880万トン)、釜石港(630万トン)、焼津港(470万トン)、博多港(454万トン)、大船渡港(412万トン)、長崎港(350万トン)などである。

年間の入港延トン数にたいする地元漁船の割合は、第1種漁港94.2%、第2種漁港93.2%、第3種漁港84.4%、第4種漁港82.7%である。

海面漁業従事者は全国で約51万人で、全人口の0.47%である。これを自営漁業従事者と漁業雇われ従事者に分けると、自営漁業のみに従事した者が32.5万人(63.7%)で、雇われ漁業のみに従事した者は15万人(29.3%)である。自営漁業と雇われ漁業の両方に従事した者は7.0%である。また、男子は82.3%、女子は17.7%で、さらに男子を年齢別にみると、15～29歳が17.4%、30～59歳が66.3%、60歳以上が15.9%となっている。

〔凡例と作図の要点〕

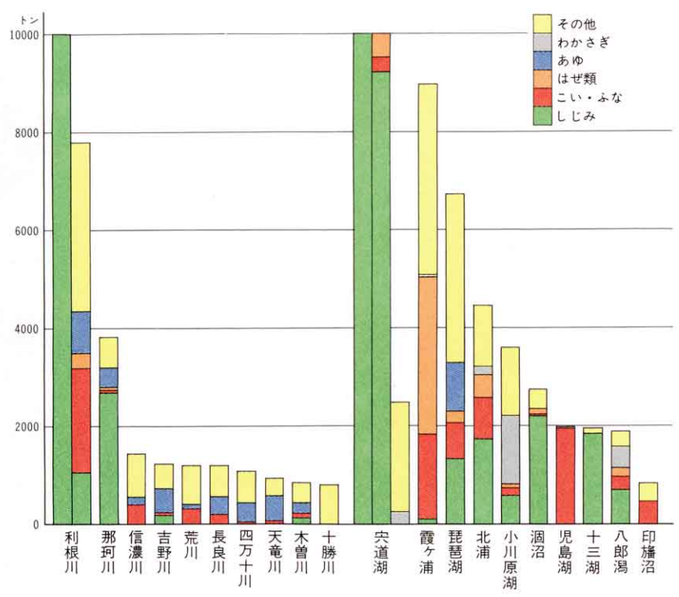
漁港のうち第2種、第3種、第4種漁港はすべて表示したが、第1種漁港については1年間に入港した漁船の延トン数が30万トン以上のものを表示した。

漁業従事者は海面漁業就業者のみを対象とし、調査日前1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者である。

〔資料〕

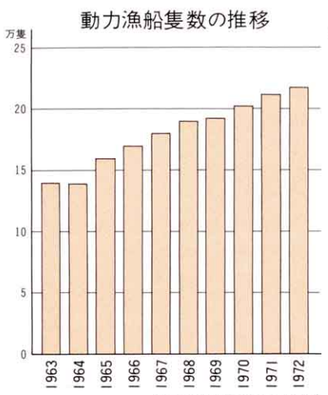
1．水産庁，漁港の港勢集，1973
2．農林省，第5次漁業センサス

主要河川・湖沼の漁獲量(1973)



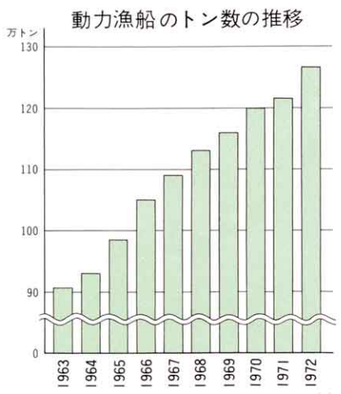
(漁業養殖業生産統計年報から作成)

動力漁船隻数の推移



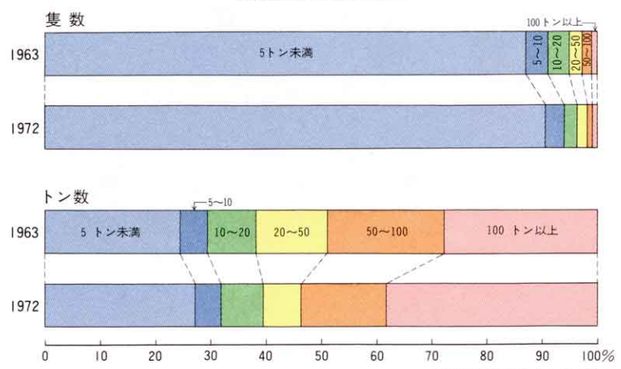
(漁港の港勢集から作成)

動力漁船のトン数の推移



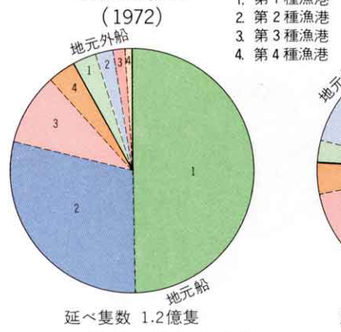
(漁港の港勢集から作成)

漁船の規模別割合



(漁港の港勢集から作成)

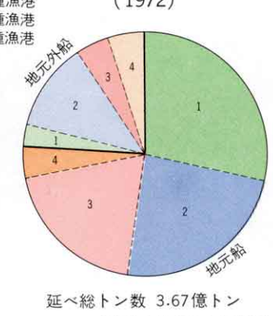
種類別漁港の利用漁船数(1972)



延べ隻数 1.2億隻

(漁港の港勢集から作成)

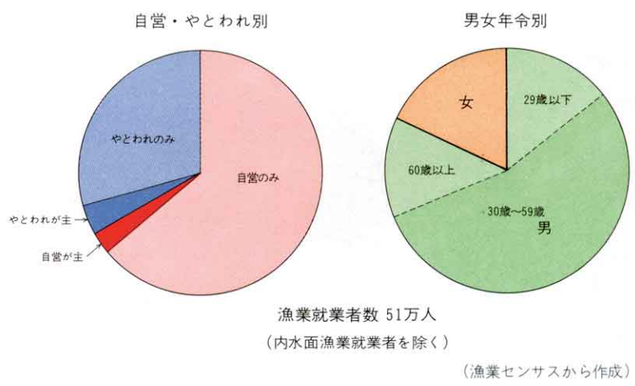
種類別漁港の利用漁船トン数(1972)



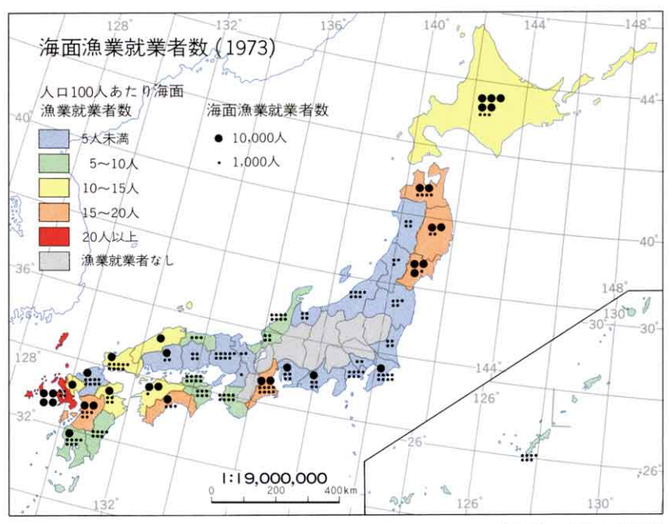
延べ総トン数 3.67億トン

(漁港の港勢集から作成)

漁業就業者の割合(1973)

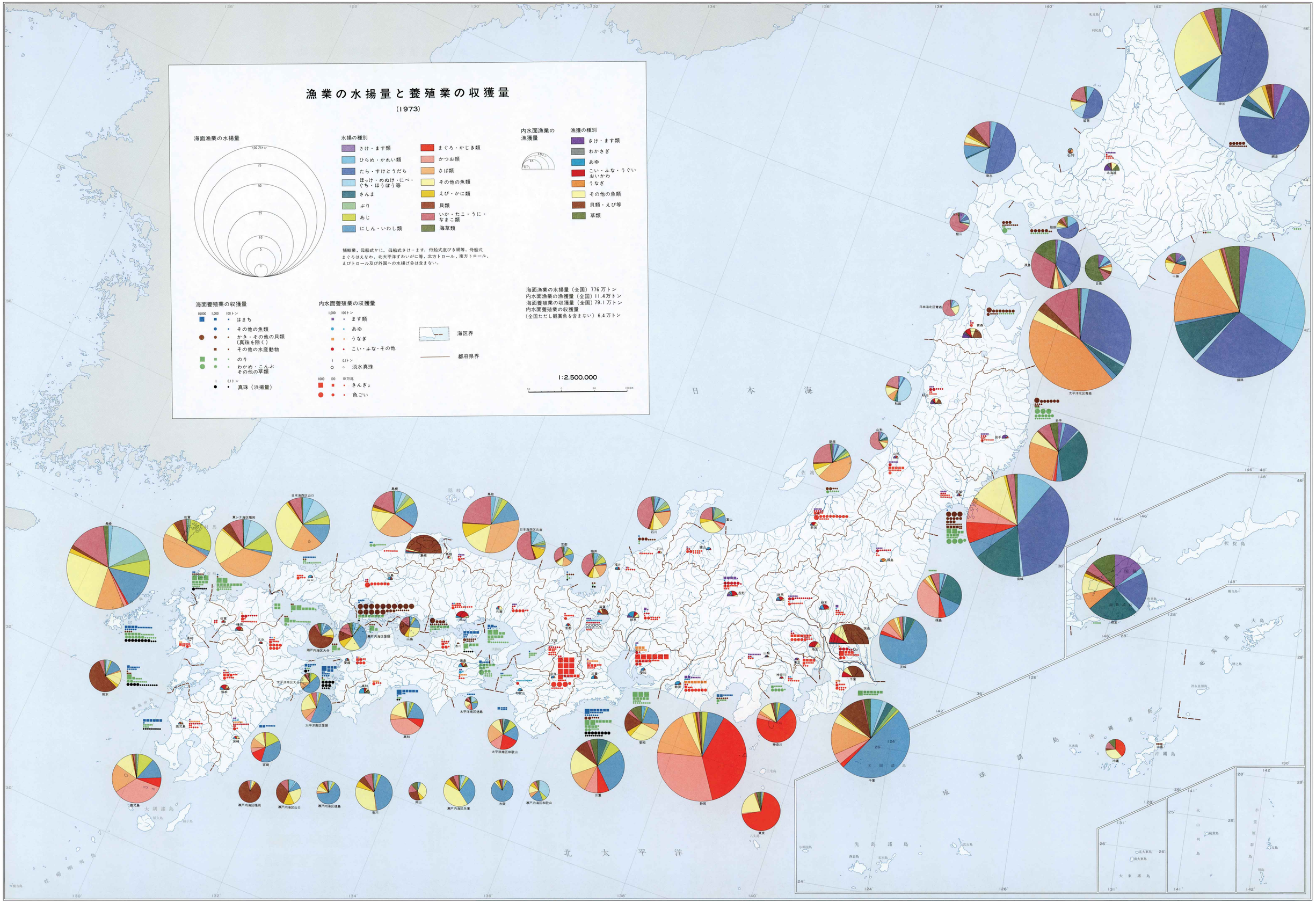


(漁業センサスから作成)

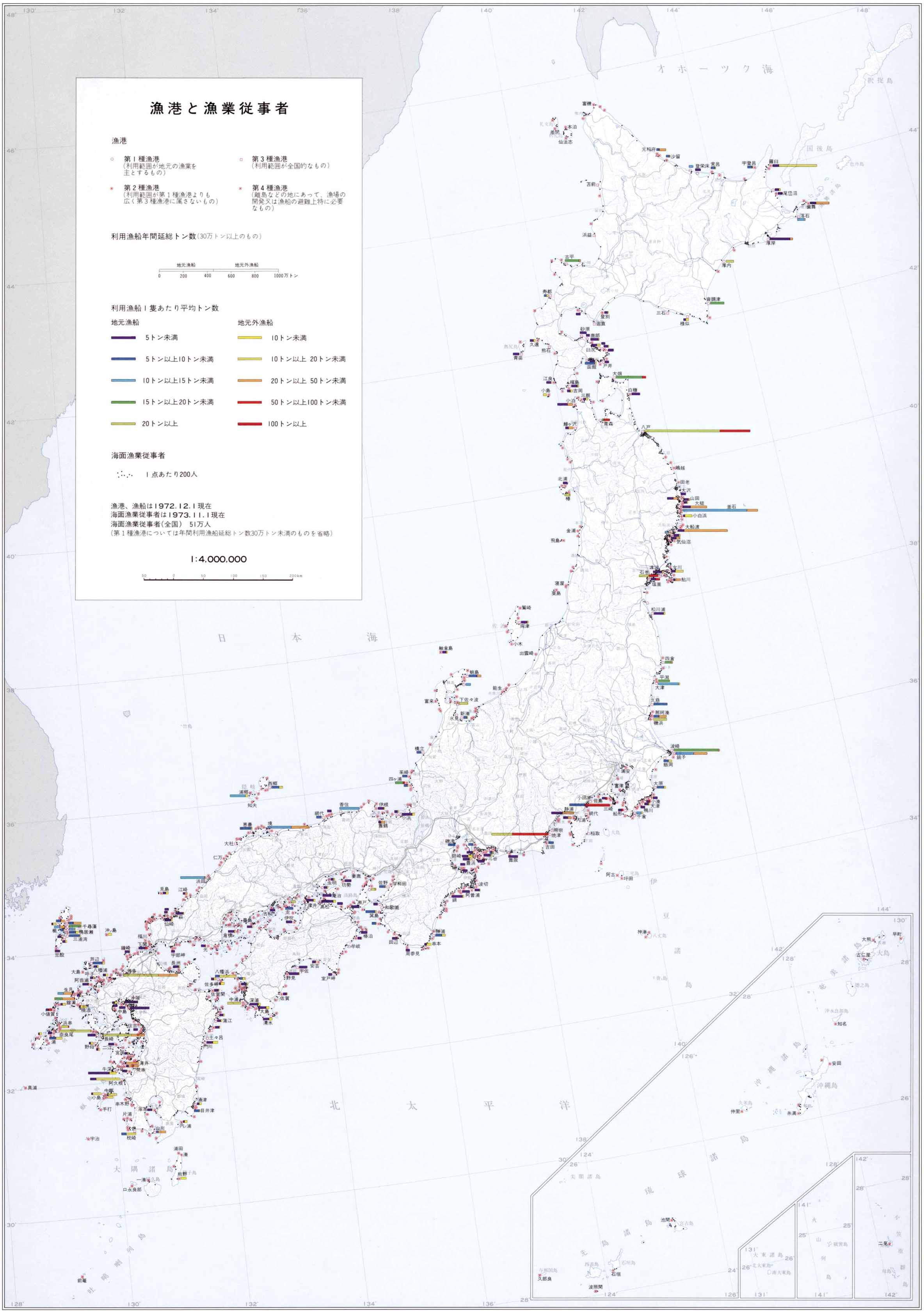


(漁業センスから作成)

41.1


漁業の水揚量と養殖業の収獲量
(1973)
海面漁業の水揚量
100万トン
75
50
25
10
5
1
水揚の種別
さけ・ます類
ひらめ・かれい類
たら・すけとうだら
ほっけ・めぬけ・にべ・ぐち・ほうぼう等
さんま
ぶり
あじ
にしん・いわし類
まぐろ・かじき類
かつお類
さば類
その他の魚類
えび・かに類
貝類
いか・たこ・うに・なまこ類
海草類
内水面漁業の漁獲量
2.0万トン
0.5
0.1
漁獲の種別
さけ・ます類
わかさぎ
あゆ
こい・ふな・うぐいおいかわ
うなぎ
その他の魚類
貝類・えび等
草類
捕鯨業，母船式かに，母船式さけ・ます，母船式底びき網等，母船式まぐろはえなわ，北太平洋すわいがに等，北方トロール，南方トロール，えびトロール及び外国への水揚げ分は含まない。
海面養殖業の収獲量
10,000
1,000
100トン
はまち
その他の魚類
かき・その他の貝類（真珠を除く）
その他の水産動物
のり
わかめ・こんぶ その他の草類
1
0.1トン
真珠（浜揚量）
内水面養殖業の収獲量
1,000
100トン
ます類
あゆ
うなぎ
こい・ふな・その他
1
0.1トン
淡水真珠
1000
100
10万尾
きんぎょ
色ごい
海区界
都府県界
海面漁業の水揚量（全国）776万トン
内水面漁業の漁獲量（全国）11.4万トン
海面養殖業の収獲量（全国）79.1万トン
内水面養殖業の収獲量
（全国ただし観賞魚を含まない）6.4万トン
1:2,500,000
50
0
50
100km
日本海
北太平洋
大隅諸島
先島諸島
琉球諸島
沖縄諸島
大東諸島
小笠原諸島
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
利尻島
礼文島
佐渡
隠岐
壱岐
対馬
種子島
屋久島
奄美諸島
沖縄島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
南大東島
北大東島
硫黄島
父島
母島
長崎
佐賀
福岡
東シナ海区福岡
日本海西区山口
島根
鳥取
日本海西区兵庫
京都
福井
石川
富山
新潟
山形
秋田
青森
日本海北区青森
北海道
網走
根室
釧路
十勝
日高
渡島
檜山
留萬
宗谷
熊本
大分
宮崎
鹿児島
瀬戸内海区福岡
瀬戸内海区山口
瀬戸内海区徳島
香川
岡山
瀬戸内海区兵庫
大阪
瀬戸内海区和歌山
三重
愛知
静岡
神奈川
東京
千葉
茨城
宮城
福島
岩手
太平洋北区青森
太平洋南区愛媛
太平洋南区和歌山
太平洋南区徳島
高知
愛媛
広島
山口
佐賀
福岡
長崎
熊本
宮崎
鹿児島
沖縄
小笠原諸島
硫黄島
父島
母島
大東諸島
南大東島
北大東島
先島諸島
与那国島
西表島
石垣島
宮古島
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
利尻島
礼文島
沖縄島
宮古島
石垣島

41.2


漁港と漁業従事者
漁港
第1種漁港
(利用範囲が地元の漁業を主とするもの)
第2種漁港
(利用範囲が第1種漁港よりも広く第3種漁港に属さないもの)
第3種漁港
(利用範囲が全国的なもの)
第4種漁港
(離島などの地にあって、漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの)
利用漁船年間延総トン数(30万トン以上のもの)
地元漁船
地元外漁船
0
200
400
600
800
1000万トン
利用漁船1隻あたり平均トン数
地元漁船
5トン未満
5トン以上10トン未満
10トン以上15トン未満
15トン以上20トン未満
20トン以上
地元外漁船
10トン未満
10トン以上 20トン未満
20トン以上 50トン未満
50トン以上100トン未満
100トン以上
海面漁業従事者
1点あたり200人
漁港、漁船は1972.12.1現在
海面漁業従事者は1973.11.1現在
海面漁業従事者(全国) 51万人
(第1種漁港については年間利用漁船延総トン数30万トン未満のものを省略)
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
伊豆諸島
小笠原群島
沖縄諸島
先島諸島
琉球諸島
大隅諸島
吐噶喇列島